

8月6日（火）大阪教室2日目。本日も大阪は暑い（蒸し暑い）

## 1 時間目 野間敏克先生講義「高校教科書で教える〈農業問題〉」

はじめに

自分からやってみたいと申し出た。マイナーな領域だが、TPPなどで重要テーマともなっている。学習指導要領とその気になる箇所を指摘して、最後にその理由が明確になるようにしたい。教科書での扱われ方は、農地改革、食糧問題とあわせるものが多い。入試でも出題されている。

この講義では、日本の農業の推移と現状、農業政策、保護する理由、これからの農業の四つから説明する。



野間先生の講義を聞く先生方

### 1 日本の農業の推移と現状

比重が低下しているデータを見たい。四つのデータがある。注目は農業で雇われている人の比率が上昇していること。

農業の比重低下は必然性がある。代表的な理論に、ペティクラークの法則（供給側に注目した法則）とエンゲル法則（需要側に注目した法則）があり、その両法則からもいえる。

農業は農家か？ 農業は農家ではない。データは農林業センサスが基本。農家の定義（10a以上、15万円）がある 販売農家（30a以上、50万円）のうち、主業（65歳未満、60日以上）か副業か、専業か兼業かで分類。主業農家は36万戸、土地持ち非農家が多くなっている。

米より野菜のほうが生産金額は多い、花卉や酪農なども多くなっている。

米は全体の1/3しか主業農家で作っているだけである。野菜は8割を主業農家で作っている。

農家は決して貧乏ではない。ピークでは800万円を超えている時期があった。ただし、農外所得が圧倒的に多い 農業所得は少ない 高齢者は年金などの収入がある。より詳しく見ると、主業とそれ以外では全く収入構造が違う。

すすむ高齢化、耕作放棄地が増えている。埼玉県よりちょっと多い面積が放棄地。

他国との比較をしてみる。途上国（食糧不足問題）と先進国の農業問題（所得調整問題）は違う、先進国は何らかの補助政策をとってきている。日本の農業の土地や利用可能率などはアメリカや豪州などとは比較しようがない。

日本の農業の労働生産性カロリーで比較すると低い、しかし土地生産性は高い。頑張っているけれど問題点がある。

ここまでが日本の農業の現状、一番大きい問題は生産性が低いことである。

### 2 戦後の農業政策を考える

農地改革では、地主—小作関係を解消、封建的な関係は解消された。しかし細切れな土地所有が出現。（裁判では「公共のため」で地主側が負けた。データを読むと、一戸が小さく国民の食糧を確保できないことが分かる。そこに政府も注目して、対策を考え出した。

農業基本法（1961）で生産性向上、農業調整問題に取り組んだ。しかし結果は思わしくない。原因の一つは、食糧管理制度にあった。配給制度である。これは戦中の食糧確保からはじまったが、のちに農家所得維持のために変質した。つまり、高く買い上げ、安く売る政策になった（需要と供給のギャップが発生）。政府の赤字の原因の一つとなった。この結果、農家規模が

小さくても何とか生きてゆける、小規模生産を維持できるという逆機能が発揮された。

もうひとつは、農協である。本来は共同組合なのだが、戦争中に農業会に組織化され、政府の意向を代行する機関となった。戦後も政府の農業政策を実行する部隊になった。また、農協の販売事業、金融保険も可能になる（特権が認められている）。

ほかに、農地法、土地改良法・改良区、都市計画法などの逆機能を発揮した一連の政策がある。農地法では、欧州のようなゾーニングをしない、いいかげん、虫食い状態になった。転用期待で農地の流動化がなくなっている。

そのうえ、減反政策が開始された。日本農業の行く手を阻んだ減反政策である。消費者の暗黙、もしくは補助金（税金）で負担させるやり方である。

構造改革をはじめた。政府も自民党もほかではない。保護すべきは農家ではなく農業だということも分かってきている。しかし、産業としての農業、世界のなかの日本の農業という視点を入れているがうまくいっていない。食糧・農業・農村基本法の制定。農地法改正 所有から利用へと変化していったが、うまくゆかず。

政権交代と農業。戸別保障制度の導入をしたが、これは農家を民主党が取り込んだといわれている。一種のばらまき政策である。

この間に、徐々に進む大規模化、担い手の変化、法人化が進む。

### 3 農業を保護する理由

食糧自給率は、定義によって印象が変わる。カロリーベースと金額ベースでは違う。

オランダと比較してみる（主食ではなく花卉などを作る、畜産など輸出が増える、穀物自給率は日本より低い、でも食料自給率は65%）

日本で自給率が低い原因には需要と供給の二つの側面がある。

需要サイドの原因は、食生活の転換、廃棄される食糧、円高が進むと輸入が増える。

供給サイドの原因は、無理して土地を大きくしてどうするか 土地ではない日本の強みを生かす生産に持ってゆけないか

さらに、自給率が低いのは問題か？ 日常的な安全保障と戦争時などの安全保障を区別すべきだろう。緊急対応は食糧よりはエネルギーのほうが危険である（野口悠紀夫）。自給率を上げることにはどれだけ意味があるか？ 根拠は薄い、保護の失敗である。

ただし、多面的機能は理解できる。外部経済性があることは事実。だからその面での保護は肯定する

手段はさまざま。論理的には多数があるが、可能なものとそうでないものがあることをしっかりわきまえるべき。

### 4 農業の生産性をあげるためには

ミクロ経済学的手法で分析（グラフを使う）できる。

主食は高い。消費者は被害大、生産者の保護大。

OECDのグラフの解説、米価の国際価格差は少し縮小している。生産者保護は大きい国である。

TPPをどう考えるか。賛成派、反対派の論議の整理を冷静にしておきたい。

米の関税保護から個別保障政策へ。ただし、民主党がやった個別保障とは別物。民主党のものは非効率な副業農家が残る。国際価格に近い価格になるように必要な政策を取るべき（グラフ参照）であろう。

米離れをしよう。米だけを問題にしない。目指すべきはオランダ的な生き方ではないか？ 輸出も増やす。そうすれば自給率は上がる（計算上）。

## 質疑

### 1 政策と心情はどうするか？

答え 冷静に考えるべきだろう。

2 地産地消はどう評価するか？

答え 個人的にやるならどうぞ。でも、全体の政策としては反対。

3 地域によって教え方が変わるのではないか？

答え 北海道でこの話をしてみたい。北海道こそ TPP で太刀打ちができるはずなのだ。

4 米以外の産物についての議論がなかったが？（農業高校の先生）

答え たしかにそのとおりだった。検討したい。

## 2時間目 杉田孝之先生＋中川雅之先生「エコノミストと経済の授業を作るく社会保障から世代間格差を考える」

杉田提案の基本的内容は 名古屋と同じなので、そちらを参照していただきたい。



提案をする杉田先生

生徒と約 30 年の年齢差、彼らが頑張ってくれないと私の年金がない。だから一生懸命おしえる私のインセンティブがここにある。高齢者のなかの所得格差が大きい。だから高所得の高齢者の補足が必要。マイナンバー制度についても考えさせたい。

課題

教科書をもう少し使いたい

世代間格差だけでなく、交流の視点も

解消の方向をもっと明確にしておきたい

中川先生のコメント

杉田実践の特徴。しっかり現実を見据えさせる授業としてはよい。年金問題を考える上で、経済成長をすればよいというのは無責任だ。

提案と疑問をいくつか。

具体的なメッセージはなに？ 投票に行け？ 勉強しろ？ということか。

狭い範囲で面白い内容だが…。社会保障に興味惹かれる授業だけではもったいない、もっと広くなぜ現代社会を勉強するのかが明確になる授業であるとメッセージ性があるのではないか。

いいたいこと 1：保険、教育、貯蓄、投資 これらはすべて現在を我慢して将来のために生かす行為。イソップのありとキリギリスの話。杉田さんは、社会保障は保険、ギブアンドテイクとして整理している。これでは自己責任の世界の話で終わってしまう。

いいたいこと 2：ギブは現在の自分、社会保障給付は自分で決められない。テイクは政府が将来決めるもの、自分で決められない。

社会保障の本質は二つ。将来のことを考えなければいけない。それをみんなで考えなければいけない。そこを押さえた授業としたい。



いいたいこと3：世代間格差は確かに問題が多い。人間は将来のことを合理的に考えられない。将来の自分を過小に評価。現在の損失を過大に評価する。それを放っておいたらどうなるか。給付を引き下げられなければ、将来は減る。国債で救済したら、将来は増税。

いいたいこと4：なぜ若者は投票しないか。それはフリーライドできるから。こんなことはしなくともよい、これをわからせてくれるのは教科「現代社会」だけ。将来の投資を妨げているのは何かを探させる。将来の投資についてお金をかけていない政府。それは現在、高齢者の力が強いからである。自分たちを妨げるのは何かを若者にしっかり考えさせてあげたい。

## 意見

1 もっと生徒に議論をさせてほしい感じがしている。

答え ご指摘のとおり。

2 新自由主義の政策をあおるという授業になっているのではないか。分配を重視した授業をしなければいけないのではないか？

答え 分配の話をもっと自分でもやってみたいとおもっている。

3 大学にいてこういう勉強をやればよいのであり、もっと基本的な内容をやったほうがよいのではないかと感じているが？そこで、経済学者の先生に聞きたいが、大学入学前に必要な能力は？

答え（中川）なんでこんな制度があるのか、何でこんなロジックになるのかをどこかで考えるチャンスを与えて欲しい。まる覚えより現代社会の構造を考えさせたい。自分の意見を述べることができる生徒がほしい。

答え（杉田）基礎的、内容は欠けているのは事実。トレードオフとおもうが、さらに二学期に社会福祉を取り上げながら改良したい。

## 3 時間目 体験型教材「ケーザイへの3つのトビラ」紹介と体験（指導、東京証券取引所石山晴美さん）

名古屋での実施と同じなので、記録は名古屋を参照していただきたい。



課題に取り組む先生方

青の扉

最初は2人1組、次に4人一組で体験を通して直接金融と間接金融を学ぶ。時間は一時間だが、かなり厳しいかもしれない。さらに時間があればチャレンジ3までやるとよい。

緑の扉

6分間のビデオ、10分間程度の話し合い。発表準備 シートにそってやるとみんな同じにな

るので、オリジナルなものを優先すると面白くなるはず。

結果は、A 1 B かなり C 3 D 1

発表の仕方を工夫すると時間が短縮できる。シールをはがし、結果を確認する。

赤の扉

バブルの時代の新聞資料を並べてゆく。

#### 4 時間目 野間敏克先生講義「歴史を経済の観点から読み解く<世界恐慌>」

篠原先生の代理だが、ご意向を踏まえて展開したい。



講義をする野間先生

はじめに いいたいこと

ストーリーで考えることが肝心、

テーマは世界恐慌。研究も進んでいる、しかし歴史を経済で読み解くことが大事。それには世界恐慌前、恐慌期、その後の影響を流れのなかで押さえない。

##### 1 事実経過の確認

1919年 ベルサイユ会議

1920年 不況

1922年から29年まで クーリッジ政権のもとでの自由放任政策が行われる。

永遠の繁栄の時代。引き裂かれたアメリカ（上流と下流に分かれる）の時代。失業率も低下。株価の上昇とバブル。ただし、景気にはかげりがでてくる。背景には、ヨーロッパの復興、農業不況、住宅需要などがある。

29年10月24日 暗黒の木曜日

10月29日 悲劇の火曜日

フーバーの楽観論、しかもとりはじめた政策が失敗だらけ。金融危機の発生。そのなかで連邦準備銀行は金融引き締め政策をしてしまう。政策の失敗である。銀行倒産の連鎖がはじまる。やっとな政策が転換するが、しかしうまく作用しない。

アメリカの大恐慌へ。それがヨーロッパへ波及、31年オーストリア最大銀行が倒産と続く。

##### 2 世界恐慌の背景① 産業革命から世界資本主義の形成

ここは資料を参照してほしい。

##### 3 世界恐慌の背景② この部分をきっちり押さえていると恐慌の本当の意味が分かる

第一次大戦以前の金本位制

第一次世界大戦による離脱

復帰

世界恐慌時に次々と離脱

バーナンキ「早い段階で金本位から離脱した国ほどより早く大恐慌から回復した」  
金本位制の原理と特徴 5つ

イギリスが金本位制の中心として役割をはたしていた  
イギリスが債権国になってしまっていて資金の循環ができなくなってきた  
金本位制の復帰が旧平価と新平価か イギリスは旧平価で復帰（これが問題だった）  
それができなくなりアメリカが役割をはたせない（はたさない）状況になっていた  
金本位制の離脱が国を救った

世界恐慌対策の失敗の相互作用 ゲーム理論でいう囚人のディレンマ状況  
世界経済が抱えていた問題が噴出し、相互のしっぺ返しを行っている  
政治家はみんな相手が悪いとしている  
それでも責任があるのはアメリカの「内向き政策」  
不況期の均衡財政主義、不況期の金融引き締め（金利は下がっているが、通貨量は減っている）。これに関しては、フリードマンのFED批判がある。  
それぞれの国は金を奪い合い（流出を止めようとして）大間違いをした。それが高関税による国内経済保護。その結果が、経済ブロック化である。  
世界恐慌の原因に関しては、経済学者の見解は異なっている。これが正解だという回答は決まらない、現在も大きな課題であり続ける。

ニューディール政策の評価

総需要政策としては評価できないものが圧倒的である。  
そのなかでも、評価されているのはグラススティーガル法だった  
しかし、これが1990年後半に廃止、サブプライム問題につながる。  
もしもこんなことをやっていれば、各国が需要拡大（金融緩和と財政支出）金本位の離脱、  
世界全体の協調政策ができればよかったことは事実。

第二次世界大戦へ

戦後経済体制に世界恐慌の反省が入っている。

質疑

1 ニューディールの評価について

答え よく調べてみるとそれほど大きくはないが、希望を持たせたという意味ではあったという程度の評価である。

以上、大阪の記録は終わる。篠原代表が参加できなかったが、野間先生が大活躍をして、無事に終了した。暑い二日間だったが、会場でも熱心な討議が続き、暑さを吹き飛ばした二日間であった。

記録文責 新井